

五所川原市
図書館整備計画

2020年3月策定

2025年3月改訂

五所川原市

図書館

<目次>

1. 計画の目的	1
2. 本計画の位置付け	1
3. 計画期間	1
4. 対象施設	2
5. 図書館の現状	2
6. これまでの整備状況	2
7. 今後の整備方針	2
8. フォローアップの実施	4
個別票	5

1. 計画の目的

近年、本市を含む多くの地方公共団体においては、公共施設等の老朽化対策が大きな課題となっています。また、厳しい財政状況が続く中、今後、人口減少等により公共施設等の利用需要が変化していくことが予想されています。このことから、早急に公共施設等の全体の状況を把握し、長期的な視点をもって長寿命化等を計画的に行うことにより、財政負担の軽減・平準化を図るとともに、公共施設等の最適な配置を実現することが必要となっています。

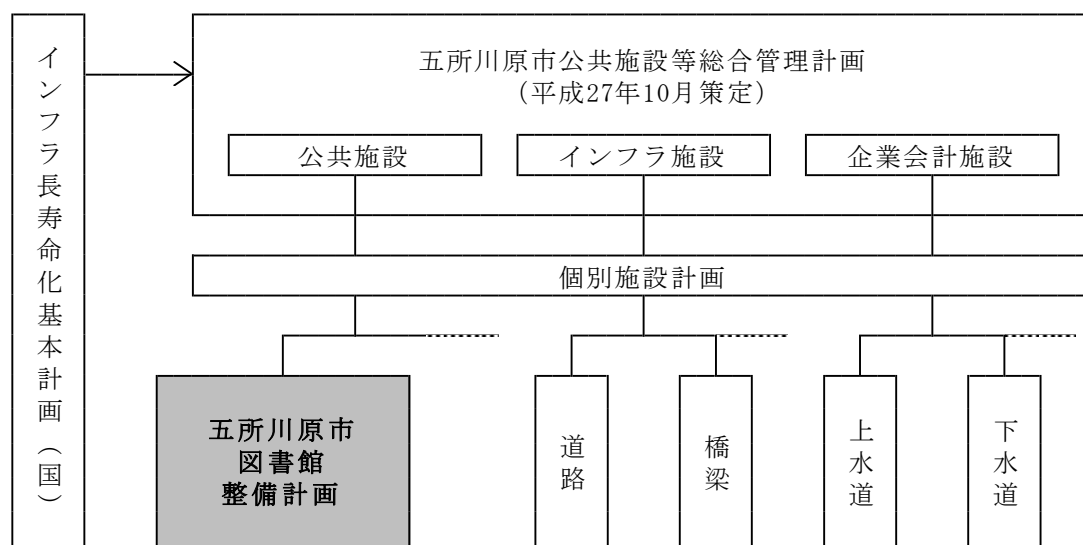
そのような中、国は2013年（平成25年）11月に「インフラ長寿命化基本計画」を策定し、各地方公共団体においても、このような国の動きと歩調を合わせ、速やかに公共施設等の総合的かつ計画的な管理を推進するための計画の策定に取り組むよう要請されたところです。

これらを踏まえ、本市では2015年（平成27年）10月に「五所川原市公共施設等総合管理計画」（以下「総合管理計画」といいます。）を策定し、基本的な方針を示しました。

今回策定しました「五所川原市図書館整備計画」（以下「本計画」といいます。）は、総合管理計画で示した基本的な方針を具現化するため、個別施設ごとに今後の方向性やスケジュール、方向性に伴う事業費などについて取りまとめたものであり、将来に向けて、保有する公共施設等を有効活用しつつ、施設保有量の適正化や計画的な保全による施設の長寿命化を図る取組の指針とするものです。

2. 本計画の位置付け

本計画は、総合管理計画に基づく実施計画である個別施設計画として位置付けます。



3. 計画期間

総合管理計画の計画期間同様 2044年度（令和26年度）までとし、5年ごとに見直しを行っていきます。

なお、本市を取り巻く社会経済情勢の変化等により、見直しが必要な場合は適宜見直しを行っていきます。

個別施設計画	第Ⅰ期 策定～2024年度	第Ⅱ期 2025～2029年度	第Ⅲ期 2030～2034年度	第Ⅳ期 2035～2039年度	第Ⅴ期 2040～2044年度
公共施設等総合管理計画	策定～2044年度（30年間）				

4. 対象施設

本計画での対象施設は以下のとおりです。

No	建物名称	所在地	延床面積 (㎡)	建築年 (年)	老朽化率 (%)	備考
1	市立図書館	栄町	1,095.70	1977	106.0	
合 計			1,095.70			

※老朽化率は、経過年数を耐用年数で割った値 (2030年3月31日時点)

5. 図書館の現状

当市の図書館は、市立図書館、金木分館（金木総合支所内）、市浦分館（市浦総合支所内）の3か所となっており、五所川原圏域内では自治体の枠を越えた広域での相互利用が可能となっています。

市立図書館は、築40年以上が経過しており、バリアフリー化や屋根の改修などは行っているものの、施設の老朽化が進んでいるのが実情で、また、開館時約2.2万冊の蔵書は10万冊強となり狭隘化も目立つようになっています。

そうした建物としての課題はあるものの、立地状況としては、市民の憩いの場である菊ヶ丘運動公園に隣接していることから、そうした環境を生かした利用の促進や整備が求められているところです。

6. これまでの整備状況

最近の主な整備・改修状況は以下のとおりです。（総事業費が10,000千円以上の主な事業）

事業名	図書館バリアフリー化事業
事業年度	2015年度（平成27年度）
事業内容	バリアフリーに配慮した施設設備改修の実施及び備品の購入
総事業費	10,001千円 （財源：諸収入（自治総合センター助成金）10,000千円、一般財源1千円）

事業名	屋根防水改修工事
事業年度	2020年度（令和2年度）
事業内容	屋根改修
総事業費	18,979千円 （財源：地方債18,900千円、一般財源79千円）

7. 今後の整備方針

市立図書館は、機能維持のための修繕・改修を計画的に行うことにより長寿命化を図るとともに、菊ヶ丘運動公園に隣接している立地条件等を生かしながら現施設を維持・活用していきます。

①施設の基本的な方針

No	施設名称	方向性	管理方法	特記事項
1	市立図書館	存続	直営	

※方向性の説明

方向性	説明
存続	現状のまま維持する。(各種改修・統合・複合化・更新などを行う。)
転用	施設機能を廃止し、他の用途へ転用する。
民間移譲	民間事業者等へ譲渡等を行う。
除却	施設を解体撤去する。(解体時期検討中を含む。)

※管理方法の説明

管理方法	説明
直営	市の直営 (個別の業務ごとに私法上の契約で委託する方式を含む。)
指定管理	指定管理者による管理運営方式
包括的民間委託	複数の業務や施設を包括的に委託する方式
P F I など	公共施設等の建設、維持管理、運営等を民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用して行う方式

②改修等の今後のスケジュール

No	施設名称	第Ⅰ期					第Ⅱ期				
		2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029
1	市立図書館	改修									改修

No	施設名称	第Ⅲ期 (2030~2034)	第Ⅳ期 (2035~2039)	第Ⅴ期 (2040~2044)

※改修等の説明

改修等	説明
改修	建物や設備の改修
建替	老朽化等のため建物を建替 (非現地建替えを含む。)
解体	施設を解体

③改修等の事業費及び財源

No	施設名称	事業年度	事業費 (千円)	事業費内訳 (千円)	財源 (千円)
1	市立図書館	2027~2029	262,968	コンクリート劣化度調査業務 アスベスト事前調査業務 設計業務委託料 (基本設計) 設計業務委託料 (実施設計) 仮設図書館引越費用 改修工事費用 改修後引越費用 (262,968)	地方債 (262,900) 一般財源 (68)

※事業費等は、調査・設計の結果を受けて変動する場合があります。

④今後の施設の総面積とコスト推計

総延床面積 (㎡)				
現在	2029 年度	2034 年度	2039 年度	2044 年度
1,095.70	1,095.70	1,095.70	1,095.70	1,095.70
維持管理コスト (千円)				
現在	2029 年度	2034 年度	2039 年度	2044 年度
11,152	11,000	11,000	11,000	11,000

8. フォローアップの実施

本計画を着実に推進していくため、PDCAサイクル (Plan (計画)、Do (実行)、Check (評価)、Action (改善)) に基づき、計画の評価・見直しを行いながら実施していきます。

所管課	図書館
-----	-----

1. 施設の概要及び目的

施設名称	市立図書館	総延床面積 (㎡)	1,095.70
所在地	五所川原市字栄町 119 番地	代表建築年 (年)	1977
構成施設	図書館		
施設の目的	生涯学習の場を提供するとともに社会の変化に対応する多様な資料・情報を収集して、広く市民の知識と教養を高め、教育・文化の向上と発展に努める。		

2. 施設の現況

(1) 品質面 (建物性能) ※品質面の合計は 100 点満点 (表 1 参照) (単位: 点)

構成施設	耐震性能	老朽化状況	主体構造	大規模改修状況	福祉性能	合計
図書館	16	16	10	12	10	64

(2) 供給面 (施設延利用者数) (単位: 人)

実績					将来推計			
2015 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2029 年度	2034 年度	2039 年度	2044 年度
69,921	40,258	37,928	45,230	49,751	50,000	60,000	60,000	60,000

(3) 財政面 (支出: 施設に係る維持管理コスト) (単位: 千円)

実績					将来推計			
2015 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2029 年度	2034 年度	2039 年度	2044 年度
9,135	10,183	10,083	12,005	11,152	11,000	11,000	11,000	11,000

(4) 財政面 (収入: 利用料等収入) (単位: 千円)

実績					将来推計			
2015 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2029 年度	2034 年度	2039 年度	2044 年度
31	42	47	69	59	50	50	50	50

3. 基本的な方針

方向性	存続	管理方法	直営	特記事項
<p>【施設の状況及び課題】</p> <p>築 40 年以上が経過しており、屋外防水工事など一部において大規模改修を実施していますが、給排水・冷暖房設備などの大規模改修や更新も必要な時期を迎えています。</p> <p>また、蔵書の増加等により施設が狭隘化しており、新たな資料収集や保存、閲覧スペースに苦慮しています。</p>				
<p>【基本的な方針の考え方】</p> <p>現在の施設については、長寿命化に向け必要な改修を実施し、築後 70 年 (2047 年度) の存続を目指します。</p> <p>改修にあたっては、菊ヶ丘運動公園に隣接しているという良好な立地条件等を活かした整備を実施し、近年求められている滞在型図書館としての機能維持を図ります。</p>				

【表1】建物性能

評価基準に重みを掛けたものを建物性能とする。

評価基準		重み
①耐震性能	5点：新耐震基準（建築年が1981年（昭和56年）以降） 4点：旧耐震基準であるが耐震性有（ I_s 値0.72以上） 3点：旧耐震基準であるが耐震性有（ I_s 値0.6以上） 2点：旧耐震基準であるが今後耐震改修の計画有り 1点：旧耐震基準（建築年が1981年（昭和56年）前）	×4
②老朽化状況 ※2030年3月31日時点老朽 化率により算出	法定耐用年数に対する建築経過年数の割合を以下の区分で評価。 5点：0～25%未満 4点：25～50%未満 3点：50～75%未満 2点：75～100%未満 1点：100%以上	×8
③主体構造	5点：主体構造が鉄骨鉄筋コンクリート、鉄筋コンクリート、プレキ ャストコンクリート等 4点：主体構造が鉄骨造、軽量鉄骨造など 3点：主体構造が木造、コンクリートブロックなど	×2
④大規模改修状況	5点：建築後20年以内の建物（大規模改修が不要） 4点：建物本体の改修を実施 3点：設備の改修を実施 2点：未実施だが、改修計画有り 1点：未実施	×4
⑤福祉性能	エレベーター、多目的トイレ、車いす用スロープ、自動ドア、手すり、 点字ブロックの6項目のうち、対応している項目数に応じて評価。 5点：4項目以上対応済 4点：3項目対応済 3点：2項目対応済 2点：1項目対応済 1点：未対応	×2